

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472300575		
法人名	有限会社 海成水産		
事業所名	グループホーム館		
所在地	大分県大分市大字入蔵1095の4番地		
自己評価作成日	平成22年5月11日	評価結果市町村受理日	平成22年8月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山間の田畑に囲まれた静かな環境で、四季の移ろいを感じながら、のんびりと過ごしていただける。心も体も健康に過ごすには「食」が大切であるという考えから、施設内の畑で無農薬野菜を作り、野菜中心の減塩食を提供している。また、一人ひとりの力を活かし、一人ひとりの思いを大切にしたい支援をし、一人ひとりが自分らしく暮らせるような居場所を提供できるよう、日々努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山懐に抱かれた景観の中に健在し、旧家の趣きを残しながらグループホームとして改築されており、窓越しに、庭のプランターに咲く沢山の花々や山の木々を眺める穏やかな暮らしがあります。標語「ぼっかり・うっかり・許されません」に示されるように、家庭的な雰囲気の中で安心して安全に暮らせる日常を介護者の使命とする中で、利用者の状態の変化に即した環境の改善にも邁進されており、施設長や職員の豊富なアイデアが随所に見え隠れする策には、知恵と工夫が輝いています。利用者一人ひとりと向き合いながら本人本位の生活を主体に、家族の協力を受けながら、地域の一員として心豊かな充実した日々の暮らしを支える介護に熱心に取り組む職員の姿勢は、ホーム全体の落ち着いた明るい雰囲気の中に映し出されています。また、近隣の事業所との交流に取り組む中で、地域に添った前進的な施設づくりへの視点も大切にしながら、質の向上に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ap.kaigo.ip/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4472300575&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府巻番館1F		
訪問調査日	平成22年5月31日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送りの後に管理者、その日の職員で理念を唱えてから仕事を始めている。	相互の心の絆「笑顔」の力を全職員が把握する中で、笑顔膨らむ家庭(施設)での暮らしを大切に、利用者に寄り添いながら、日々の支援に励んでいる様子が伺えます。施設は地域の一員であり、住民から愛される環境作りにも取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が地域住民で、ほとんどの職員も地域住民だが、利用者との日常的な交流はない。	ご近所付き合いの一環として地区の子ども会との交流が進められ、馴染みの関係づくりに努めています。民生委員の研修・中学生の職場体験等の訪問受入れや小学校の運動会への応援訪問等、地域間の交流にも積極的に取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員さんが見学に来られ、認知症、グループホームについて説明をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、利用状況、近況、病院受診等の報告をしている。外部評価、情報公表についても報告している。その時話題になっている事(グループホーム火災等)についても話し合い、サービス向上に活かしている。	「交流会(年1回)」の推進会議では、利用者や地域住民とも膝を交えながら、現況の把握・地域に根付いた相互の関係づくりに努めています。また、会議では『地域から信頼を受ける施設の在り方』等についても、見解を深めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に参加していただき、上記報告を行い、意見交換や相談をしている。	推進委員会への出席・施設からの電話相談等と、相互のコミュニケーションづくりに努めている様子が伺えます。	担当者の積極的な訪問活動により相互交流の継続を図る中で、地域(田舎)施設の特性や地域性と施設のニーズ、住民の意向・動向等を行政の視点からも見渡し、更なる向上に繁栄されると期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等排除の理念及び方針の周知徹底、身体拘束に関する研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束ゼロ運動等排除の理念と方針」が定められ、全職員の周知が図られる中で、職員相互の気づきの大切さを理解しており、言葉かけの指導などを通して利用者の心に寄り添う支援・身心の拘束を排除するケアの実践に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法や高齢者虐待調査結果についての研修を行い、職員の意識向上、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を配布し職員個人で学ぶ機会は持ったが、全体での勉強会、話し合いには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御相談があった際に見学に来ていただき、十分な話し合い、説明をしている。納得された上で契約していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見は日常のコミュニケーションの中で把握に努めている。御家族の意見は面会時のコミュニケーションやアンケートを用いて把握に努めている。	支払時の施設訪問(毎月)や入居者ご家族アンケート等の実施により、家族の希望・要望や意見の把握に努めながら、相互の交流や協力体制づくりに励むと共に、利用者一人ひとりの思いを尊重した支援の実践に全職員で取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやカンファレンスの際に意見や提案があれば、皆で話し合い業務改善やサービスの質の向上につなげている。	調和的で友好的な職員関係を基盤に、相互の「よかったね報告」によるコミュニケーションを大切に、『気づきの支援による介護資質の向上』の実践へ向け全職員で取り組んでいます。個々の職員の目標に添ったスキルアップを支援しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は資格取得のための援助や資格取得に対する給与アップ、個々の状況に合わせた労働時間の調整、各自の勤務希望を取り入れたシフト作成等、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのレベルにあった研修の受講を促し、勤務調整をして研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加する事で同業者と交流し、近隣のグループホームとは相談や相互訪問できる関係である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と十分にコミュニケーションを取り、信頼関係を築けるよう努めている。訴える事ができない場合は、本人の様子を親で安心の確保につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入までの経過を聴く中で困っている事等を把握し、どのような支援をしていくか家族等と話し合い、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設のできる事、できない事を説明し、本人に合った施設であるか判断している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事、得意な事を把握し、協力していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族等にヤカタ便りを送付し、本人の様子や行事等を伝えている。面会時には日頃の様子を伝えながらコミュニケーションを取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊、外出支援を行っている。面会の機会を確保するために支払いは当施設に来て、していただいている。	馴染みの関係の維持継続には、利用者一人ひとりの思いを捉える目・気持ちに寄り添いながら気づきの心で接する姿勢が大切であることを、個々の職員が共通の意識として周知する中で、家族の協力を受けながら支援の実現に向けて励んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う、合わない等を考慮しつつ、コミュニケーションが取れるようさりげなく誘導している。自然に支えあっている方もいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合は面会に行っている。亡くなられた場合はお葬式に参列している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で意向の把握に努めている。困難な場合は家族の情報や生活歴等を参考にし、本人の立場になって検討している。	利用者の折々の思いに気付ける職員の姿勢とは「なぜ？そのように言われるのだろうか？なぜだろう？」と自分なりに課題を持ち思索する事であり、『職員相互の声』を大切に捉えながら、実践に即した支援に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	導入時等に情報収集している。日々の暮らしの中で分からない事があれば、家族に聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子等で気付いた事があれば申し送りで伝え、職員全員が現状を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聴き、介護職員と話し合い、介護計画を作成している。	利用者の思いの反映・心身の状態と支援の状況、家族の要望を基に、『お勉強会(ケアプラン)』において職員の意向が話し合われ、計画の策定に取り組んでいます。毎月のモニタリングを通して、プランの検討や見直しも進められています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等は個別記録に記入している。申し送り時に情報の共有に努め、話し合った上で実践している。それを元にモニタリングを行い、介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況の変化やニーズに応じて、環境を整えたり、支援を行っている。利用者が入院された際は面会に行ったり、洗濯をしたり		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りでは毎年おみこしに来ていただいている。今月は地域の子ども会が訪問し、太鼓を披露してくれる予定となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等と相談してかかりつけ医を決めている。また、状態に応じてかかりつけ医以外の専門医を受診している。	受診対応は職員が行い、その都度家族への報告が行われており、職員間においても必ず情報が共有出来る体制が整っています。往診や定期健康診断も病歴や状態により月1回～年1回は必ず実施する支援が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化等があれば職場内の看護職に伝えたり、かかりつけ医に相談して適切な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は面会に行き、病院関係者と情報交換している。日頃の通院介助時にかかりつけの病院関係者と情報交換や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針を決めている。重度化した場合は事業所、本人、家族等、かかりつけ医と話し合い、共に支援している。	契約時に説明を行い方針を決めていますが状況の変化に伴い再度、医療、家族、事業所間にての話し合いを持ち事業所の出来る範囲の説明を行なった上で今後の方針を共有し支援を行うよう図られています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備、周知徹底をしており、消防署による心肺蘇生法の講習を受けた。今後、定期的な研修を行う予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災時の消火、通報、避難誘導訓練を地域の方と共に行っている。地域の方に災害時の協力依頼をしており、協力していただける方の連絡先の一覧表がある。	独自の消火栓の準備が整っており、年2回の避難訓練や消火訓練も地域の方の協力体制も整い積極的に取り組まれています。避難場所、食料、水、備品等の設備も整っています。	環境面で建物の裏が山の為職員間では常に土砂に注意をしているとの事でしたが今後も注意深く取り組まれて行く事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営方針の利用者様は私達の家族という精神の下に、認知症グループホームサービスの権利擁護、虐待防止コンプライアンスルール等を用いて研修し、一人ひとりを尊重した言葉かけや対応している。	認知症、虐待、拘束についての勉強会を定期的に行い、一人ひとりの性格を把握したうえで声かけや対応を心がけており、又職員間においても統一された支援に取り組まれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の意思を尊重した支援をしている。希望の表出や自己決定が難しい場合は日頃の様子や生活歴、その日の気分や体調等に応じて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事の日程や定期受診、食事時間はおおまかに決まっているが、基本的に本人の希望や体調等に応じて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を購入する際は一緒に選んだり、その人らしい物を選んでいる。整髪の際は鏡を見て確認していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所周辺で取れる山菜等を使い、季節感のある食事を提供している。フキの皮をむく等、野菜の下ごしらえをしていただいている。利用者の席は相性を考えて決めている。	季節感を感じる食材が食卓に上がっており、食事の下準備も職員、利用者と一緒にしながら昔話や得意料理と話しが弾んでいます。又色彩、咀嚼し易い、硬さ、大きさ、にも配慮が行われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量をチェックしている。なかなか水分摂取していただけない方には、何度も声かけをして摂取していただいたり、好みの飲み物を勧めたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の力に応じた口腔ケアをしている。十分にできない方もまず自分でいただき、最後に職員が仕上げをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、一人ひとりに合った排泄支援をしている。声かけやトイレ誘導をしてなるべくトイレで排泄できるようにしている。	残存能力を活用したトイレ誘導を行い、一人ひとりに合ったトイレを選択する事により自立に向けた支援に取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より牛乳や野菜を多く取り入れた食事を提供している。食事、水分摂取量、排便チェックを行い、水分摂取を促したり内服薬の調整をしている。オムツを使用している方も毎朝食後にトイレに座っていただき、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日午後に入浴支援をしている。体調不良の場合は清拭をしたり、排泄の失敗があった場合はシャワー浴をしている。	高齢化が進む中身体レベル低下を考慮し入浴リフトを導入し、心地よく、安心して楽しい入浴が出来る支援の取り組みが行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や希望などに応じて自室で休んでいただいたり、就寝していただいている。寝つけない場合は見守り、気持ちが落ち着いてから就寝介助をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりが使用している薬について把握に努めている。薬が変更になった場合は個人記録に記載し、申し送りして伝えている。薬の準備と配薬が同じ職員にならないようにし、二重に確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力や得意な事等を把握し、役割を持っていただいている。また、好きな場所で好きな事をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩をしたり、庭でお茶を飲んだりしている。季節ごとに花見や紅葉狩り等に出かけている。	季節のドライブも取り入れながら日常的には広い庭を散歩コースとしており、又庭を利用し地域の方と共に郷土料理を作り触れ合う機会を作る等の工夫も行われています。	地域の方の協力が得られつつある中、家族の方とも協力が得られるような体制作りが出来るよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方にはお金の所持、買い物の時の支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族等に電話をかける支援をしている。現在、手紙のやり取りができたり希望される方はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温湿度計を用いて温度、湿度を調節している。ソファ、畳の間、テーブル席等、それぞれ好きな場所で過ごしていただいている。いつも季節の花を活けたり、季節に応じた飾り付けをしている。	窓辺に設置しているソファからは庭のプランターに咲く綺麗な花や目の前に広がる山からは、季節を目から感じられ、一日の殆どをここでゆっくり過ごせる様に一人ひとりに合った椅子の工夫もされており居心地の良い空間となっています	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	以前は一人になれるように廊下にもソファを設置していたが、座る方がいなくなったため居間に設置した。ソファの一つは窓向きに設置し、のんびりと外の景色が見れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に家具等を持ち込まれる方が少ない。行事の時の写真や花を飾っている。	各部屋には庭で育てた花がその方の危険にならない場所にさりげなく飾られており、一人ひとりのリスクを察知した対応策が取られ、安心、安眠出来る部屋作りの工夫が行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日頃のかかわりの中で一人ひとりの力を活かし、混乱や失敗を招かないような環境整備をしている。		